

月刊しばうら

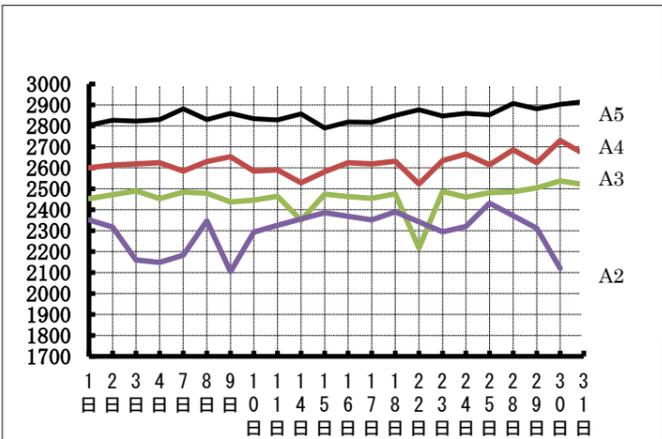
2016年4月号

大動物事業部

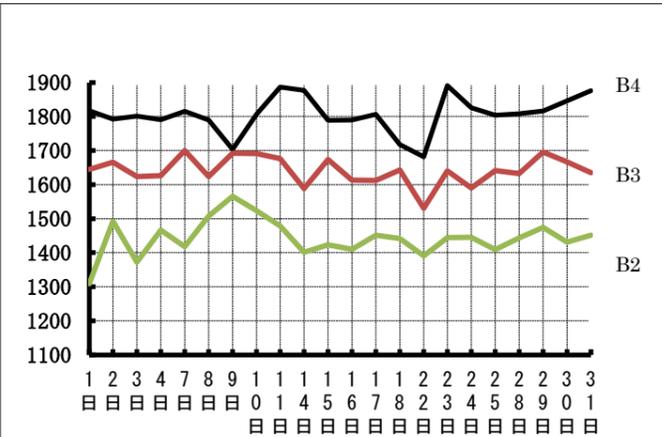
＜3月の相場動向＞

3月の牛枝肉相場は、和牛去勢は各等級で前月の保合い、交雑去勢は年明けから続落していた枝肉相場もいくらか上げの相場となった。継続的な出荷頭数不足にあるなか末端需要の低迷や、年度末決算を控え積極的な購買状況ではなく、同一規格物品でも枝肉仕上りの優劣により価格差が生じる相場動向となった。

和牛去勢 日別相場表（3月）



交雑去勢 日別相場表（3月）



和牛去勢月平均	前年同月比	前月比
A5 2,841円	117.8%	100.3%
A4 2,619円	118.0%	100.0%
A3 2,469円	118.3%	100.1%
A2 2,298円	118.3%	98.7%
交雑去勢月平均	前年同月比	前月比
B4 1,805円	112.6%	102.5%
B3 1,645円	108.3%	104.0%
B2 1,438円	99.9%	104.0%
乳牛去勢月平均	前年同月比	前月比
B3 上場なし		
B2 973円	91.8%	124.4%

＜4月の全国出荷頭数予測＞

農水省統計部が発表した2月の食肉流通統計による全国と畜頭数は、前年同月比3.5%減の8万2,390頭となり、和牛は5.9%減の3万4,319頭、交雑種は1.7%減の1万7,469頭、乳用種は0.8%減の2万9,813頭となった。農畜産業振興機構によると、4月の出荷予測頭数は、前年比3.5%減の9万2,400頭と予測している。品種別にみると和牛は4.6%減の4万300頭、交雑種は酪農家での黒毛交配率の高まりにより3.1%増の1万9,900頭、乳用種は6.0%減の3万800頭としている。

東京食肉市場の4月のと畜頭数は7,600頭を予定しています。

＜4月の牛枝肉相場見通し＞

4月の枝肉相場は、出荷頭数減が見込まれるなか気温上昇に伴い、行楽シーズン等で本格的な焼肉需要期をむかえ、月末には大型連休が控えており需要の高まりを受けて強含みの相場が予測される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,800～2,900	B4	1,750～1,850
A4	2,650～2,750	B3	1,550～1,650
A3	2,500～2,550	B2	1,350～1,450
A2	2,350～2,450		
乳牛去勢			
B3	1,100～1,150		
B2	1,000～1,050		

＜4月の牛肉輸入量予測＞

財務省の貿易統計によると、2月の輸入牛肉通関量は、前年比7.0%減の3万2,887tと3万tを回復したものの、前年を下回った。チルドは8.6%増の1万4,499t、フローゼンは16.5%減の1万8,388tとなり、米国産チルドは、昨年同月の北米西海岸の物流問題での影響などで、昨対比では増加しているものの前月比では5,000t台と変わらず、フローゼンは国内での在庫増を踏まえ、手当てを絞ったことで4割近い減少となった。豪州産チルドも長期間の休暇の影響で少なめの数量となった。

農畜産業振興機構の予測による4月の牛肉輸入数量は、前年比30.8%減の4万tと予測している。チルドは豪州産が4月からの日豪EPAに基づく関税率引き下げを踏まえた通関繰り延べが見込まれることや、牛群再構築に伴い出荷頭数が減少するため13.2%減の1万7,700t、フローゼンは、前年の関税率の引き下げを踏まえた通関繰り延べにより数量が大幅に増加した反動もあり、40.4%減の2万2,200tと前年同月を大幅に下回ると予測している。

輸入牛肉通関量		2月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	8,459	8,706	97.2%
	米国	5,319	3,971	133.9%
	その他	721	670	107.6%
	合計	14,499	13,347	108.6%
フローゼン	豪州	10,882	8,150	133.5%
	米国	5,886	9,429	62.4%
	その他	986	4,450	22.1%
	合計	18,388	22,020	83.5%

単位：t

出典：食肉速報

小動物事業部

食肉流通統計によると、2月の全国と畜頭数は136万1,380頭（前年同月比106.2%）となり前年を上回る頭数であった。

また、2月分の豚肉通関実績は、総量で6万3,622t（前年同月比117.8%）と前年より上回った。うちチルドが2万6,997t（同131.1%）と増加した。内訳は米国が1万5,586t（同122.0%）、カナダは1万370t（同154.4%）と増加。メキシコが1,039t（同94.8%）と減少。フローゼンは3万6,624t（同109.6%）と前年を上回り、デンマークが9,389t（同129.0%）、米国が3,625t（同53.3%）、カナダが2,521t（同92.2%）であった。

＜3月の豚取引の推移＞

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	66,400	463	446	951
2日	60,000	482	453	776
3日	66,500	479	461	753
4日	64,300	487	453	903
7日	66,100	523	510	833
8日	67,700	540	509	1050
9日	58,500	524	491	829
10日	67,900	525	497	709
11日	67,200	482	452	891

上旬の全国と畜頭数は1日あたり6万5,000頭と前年を上回る頭数であったものの、当市場は平均850頭と前年を下回る上場頭数であった。スソ物は引き続き堅調な相場で推移、また通関の遅れの影響で輸入チルドのロイン系はひっ迫していることからロース、カタロースの荷動きも良好してきた。当市場上物価格は460から540円まで上昇してきた。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
14日	65,900	475	455	759
15日	67,500	482	448	984
16日	62,300	467	433	752
17日	69,700	467	436	743
18日	69,600	473	440	996

中旬の全国と畜頭数は前年を上回ったものの、1日あたり6万7,000頭と7万頭を割り込んだ。当市場は平均850頭と前年を下回った。3連休を前に全体的な荷動きは鈍くなった。堅調に推移していたスソ物も春休みを控え学校給食需要も鈍ってきた。一方、ヒレ、ロースはまずまずの動きであった。

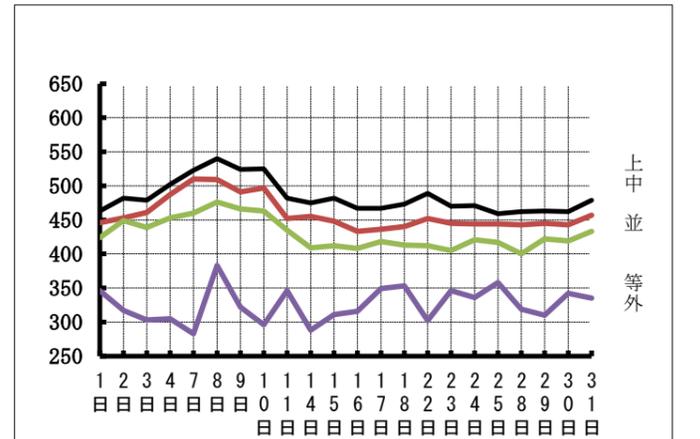
上物価格は460円から480円と落ち着いた相場となった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
22日	75,600	489	452	701
23日	72,800	470	445	906
24日	70,000	471	444	907
25日	69,800	459	444	910
28日	65,500	462	443	818
29日	67,600	463	445	940
30日	63,900	462	443	772
31日	65,800	479	457	712

下旬の全国と畜頭数は6万8,800頭となり、前年を上回った。しかし当市場の上場頭数は平均830頭と前年並みの上場頭数となった。3連休の末端消費も活発な動きが見られず、休み明けの相場も軟調となった。

学校も春休みに入った事からスソ物は引き続き停滞。一方、行楽、入学シーズンを迎えるにあたりヒレ、ロース、またスペアリブの需要は良好してきた。上物価格も460円から480円と上向いた。

豚 日別相場表（3月）



＜4月の豚枝肉相場見通し＞

農水省による4月の全国と畜頭数は、137万3,000頭（前年同月比100.0%）と予測しており、一日当たりの頭数は約6万8,600頭である。当市場の4月の集荷予定頭数は1万6,500頭となっており、一日当たりでは約820頭の見込みである。

また、農畜産業振興機構による3月分の豚肉輸入見込数量は、総量で6万9,100t（前年同月比94.5%）の予測となっている。内訳はチルドが2万8,000t（同100.4%）、フローゼンは4万1,100t（同90.9%）の予測である。

また1月における豚肉推定在庫量は、国産品が1万6,853t（前年同月比99.8%）、輸入品は15万1254t（同90.1%）となり合計16万8,107t（同91.0%）となった。推定出回り量は13万4,133t（前年比101.1%）で前年を上回った。うち国産品は7万4,171t（同95.7%）輸入品は5万9,962t（同108.7%）であった。国内生産量は7万4,890t（同100.5%）と引き続き前年を上回った。

このような状況の中、昨年と同等の全国と畜頭数、輸入見込数量であれば、昨年のGW前の輸入品の供給過多でもない限り、GWの国産品需要が見込まれ、特に月末にかけて連休需要が活発な取引が行われると思われる。よって平均上物530円 中物500円前後を予測する。

出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、東京食肉市場では防疫体制を強化しております。来場の際における生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

URL <http://www.tmmc.co.jp/>